

あいち農産物生産流通レポート

2024年7月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 東京都中央卸売市場における2023年産の愛知県産農産物の動向	(東京事務所) 1
・ 主要なイチジク2品種を識別するDNAマーカーを開発	(農業総合試験場) 3
◎ 地域トピックス	
・ JAひまわりが花き・青果総合集出荷貯蔵施設を再編整備	(東三河農林水産事務所) 4
◎ 東日本情報	
・ 運輸・物流業界の悩みを解消する展示会「運輸安全・物流DX EXPO 2024」～ 2024年問題等の物流問題の改善を提案 ～	(東京事務所) 5
◎ フラワーページ	
・ 「フューネラルビジネスフェア2024」が開催されました	(東京事務所) 7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

東京都中央卸売市場における 2023 年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023 年産（令和 5 年 1 月から令和 5 年 12 月まで）の東京都中央卸売市場（9 市場）での本県産農産物の総取扱額は 329 億円（シェア 5.0%）で 47 都道府県の中で第 6 位でした。

なお、本県産農産物の内訳は野菜が 181 億円（前年対比 99.8%）、果実が 21 億円（前年対比 104.8%）、花きが 127 億円（前年対比 101.3%）となりました。

1 野菜の動向

東京都中央卸売市場での野菜の総取扱額は 3,679 億円で、前年をわずかに上回り（+2.5%、88 億円増）ました。

本県産について、キャベツは、2 月までの低温・干ばつの影響が 3 月以降は解消して作柄良好となり、6 月上旬まで数量潤沢で相場は軟化の様相が続きました。11 月以降も各地生育順調で数量潤沢で相場は軟化し、取扱額は前年をかなり下回りました。トマトは、夏場から 11 月中旬までは高温による着果不良や裂果が多発し、入荷量が少ない状況が続き、過去にない高値となり、取扱額は前年をかなり上回りました。ブロッコリーは、厳寒期から春にかけて生育は前進傾向で、10 月以降も生育順調となり、数量が前年より増加したため取扱額は前年を大幅に上回りました（表 1）。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	2023 年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	18,123,198	99.8%	6位(4.9%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	4,255,155	85.3%	2位(24.8%)	①群馬、③千葉
トマト	2,848,197	108.0%	3位(10.1%)	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,346,015	97.2%	2位(15.0%)	①熊本、③北海道
おおば	3,166,006	102.2%	1位(85.1%)	②茨城、③大分
ブロッコリー	1,102,320	118.1%	5位(7.5%)	①北海道、②香川、③熊本

*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

2 果実の動向

東京都中央卸売市場での果実の総取扱額は 1,984 億円で、前年をやや上回り（+3.8%、73 億円増）ました。

本県産について、いちじくは、ハウス、露地ともに生育順調で入荷が始まり、平年並の入荷量となりました。8 月の台風の影響で入荷量が一時的に減り、取扱額は前年をやや下回りました。かきは、8 月から収穫期にかけての高温の影響により日焼け果が発生し、入荷量を減らしましたが、取扱額は前年並となりました（表 2）。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	2023年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	2,059,264	104.8%	19位(1.0%)	①栃木、②青森、③山梨
みかん類	522,981	118.4%	7位(1.7%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちじく類	441,986	97.1%	1位(49.6%)	②和歌山、③静岡
かき類	511,048	98.9%	4位(7.0%)	①和歌山、②奈良、③福岡
いちご類	137,736	79.1%	13位(0.4%)	①栃木、②福岡、③茨城
メロン類	99,275	94.1%	9位(0.9%)	①茨城、②静岡、③熊本

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

3 花きの動向

東京都中央卸売市場での花きの総取扱額は906億円で、前年並（-0.3%、2億円減）となりました。

本県産について、輪菊は生育順調で入荷量を伸ばしました。スプレーマムは6月の大雨の被害の影響により生産量が減少しました。バラ、カーネーションはブライダル需要などの引き合いがあり、単価を伸ばしました。鉢花、らん鉢はコロナ禍の自宅需要が弱まったことにより、引き合いが弱くなり取扱額が減少しました（表3）。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	2023年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	12,726,013	108.2%	1位(14.0%)	②千葉、③埼玉
切り花計	9,730,852	114.7%	1位(15.6%)	②千葉、③静岡
菊類	6,384,367	114.6%	1位(40.5%)	②沖縄、③栃木
ばら類	1,072,873	106.6%	1位(17.8%)	②静岡、③山形
カーネーション類	349,247	105.4%	5位(5.6%)	①長野、②千葉
観葉植物	1,407,748	92.7%	1位(34.5%)	②鹿児島、③静岡
鉢花	530,075	87.8%	2位(12.7%)	①埼玉、③千葉
らん鉢	309,186	81.4%	5位(7.6%)	①千葉、②山梨、③埼玉

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

主要なイチジク 2 品種を識別する DNA マーカーを開発

農業総合試験場

DNA マーカーを使った品種識別は、対象の DNA 情報から品種を客観的かつ迅速に判別する技術です。流通する生産物の管理や品種の育成者権保護に有効です。

愛知県で生産されるイチジクは主に「柘井ドーフィン」と「サマーレッド」の 2 品種です。両品種には収穫時期や果実の大きさといった差異がありますが、「サマーレッド」が「柘井ドーフィン」の枝変わり（突然変異）であるため、苗木や葉の形態はほとんど同じで、外観からの区別は非常に困難です。外観で品種識別がつかない場合は DNA マーカーを使った品種識別が行われていますが、「サマーレッド」と「柘井ドーフィン」のゲノムは交雑で育成した品種間に比べ、非常に相同性が高いと考えられ、既存のイチジクの DNA マーカーでは判別ができませんでした。

そこで、愛知県の主要品種である「柘井ドーフィン」と「サマーレッド」を識別する DNA マーカーの開発に取り組みました。

表 1 「柘井ドーフィン」と「サマーレッド」の特徴

柘井ドーフィン	サマーレッド
	
果皮につやがない	果皮につやがある
甘味が強い	さっぱりした味
裂果する	裂果が少ない
8月上旬から収穫	7月下旬から収穫

1 研究内容

大量の DNA 情報を超高速に取得できる次世代シーケンサーを使用して 2 品種の全ゲノムを解読しました。「柘井ドーフィン」と「サマーレッド」の DNA 情報を詳細に比較することで、2 品種間に存在する DNA の違いを検出し、PCR によって判別できる DNA マーカーを開発しました。

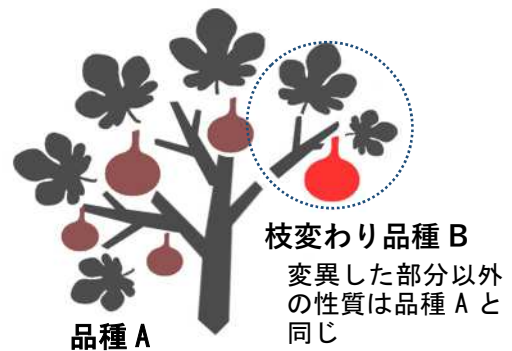
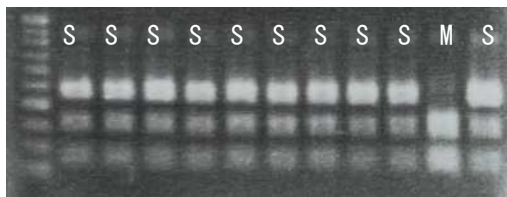


図 1 枝変わり品種のイメージ

2 DNA マーカーによる「柘井ドーフィン」と「サマーレッド」の識別



S：サマーレッド、M：柘井ドーフィン

図 2 DNA マーカーによる 2 品種の識別

開発した DNA マーカーを用いて、県内の生産地で栽培されている品種の識別を行いました。その結果、すべてのほ場で採取した 2 品種を正しく識別することができました。

この技術を使用することで、生育段階を問わず、苗木や葉といった状態でも 2 品種を識別できるようになりました。品種の確認作業が大幅に迅速化され、イチジク研究の効率化や生産物管理の強化が期待されます。

JAひまわりが花き・青果総合集出荷貯蔵施設を再編整備

東三河農林水産事務所

強い農業づくり総合支援交付金を活用した花き・青果総合集出荷貯蔵施設の整備が令和5年度に行われ、令和6年4月に竣工式が行われました。

1 事業実施の背景及び目的

JAひまわりでは、5カ所の集出荷施設（青果3カ所、トマト1カ所、花き1カ所）で集出荷を行ってきました。しかし、冷蔵施設の能力不足による販売機会の逸失、出荷量の低下による流通コストの増加、菊類の生産者が実施している選別・箱詰め作業の外部委託の要望の増加が問題となっていました。

そこで、令和5年度、青果2カ所、花き1カ所に施設を再編整備・集約することにより、これらの問題を解消し、産地の生産力・競争力の強化を図ることとしました。

総事業費は2,306,700千円で、うち補助金（国費）は1,014,134千円、うち補助金（市費）は101,413千円です。

2 取組及び効果

(1) 品質向上と出荷物の確保

品目に応じた温度管理ができる冷蔵施設を新設することで出荷場内での品質低下を抑制し、彼岸、お盆など需要が多い時期でも出荷物を確保できるようになりました。

(2) 物流問題への対応

施設集約により集出荷施設での作業効率が向上し、施設あたりの出荷物量を増やすことで輸送の合理化が図られました。

(3) 出荷調製作業の省力化

スプレーギクのバラ受け（生産者がJAに選別・箱詰め作業を委託）施設を新設することで利用者の出荷調製作業時間を減らすことができました。

3 今後

利用計画に基づいた円滑な運用ができるよう関係機関と連携し支援していきます。



竣工式で挨拶するJAひまわり組合長



荷受・検査ライン（花き）

運輸・物流業界の悩みを解消する展示会「運輸安全・物流 DX EXPO 2024」 ～ 2024 年問題等の物流問題の改善を提案 ～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「運輸安全・物流 DX EXPO 2024」(主催：株式会社リックテレコム)が2024年5月29日(水)～31日(金)の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区有明3丁目)で開催されました。

1 運輸・物流業界の様々な課題の解決を目的として開催

本展示会は、運輸・物流業界の悩みを解消する IT・デジタルソリューションが一堂に会し、「2024 年問題」による人手不足や物流コストの上昇等の深刻化への懸念、ドライバーの安全対策の強化、我が国の CO₂ 排出量の約 2 割を占めると言われる運輸・物流業界での脱炭素の取組等の課題解決を目的として開催されました。

会場では、計 68 の企業が IT・デジタル技術を活用した安全運転や事故防止、ドライバーの健康管理、DX による業務効率化等、運輸・物流業界の様々な悩みや困りごとを解消する製品やサービス、ソリューションを展示していました。

主催者の発表では、来場者数は3日間で計 8,501 名となりました。



「運輸安全・物流 DX EXPO2024」の会場の様子

2 2024 年問題に関する講演の紹介

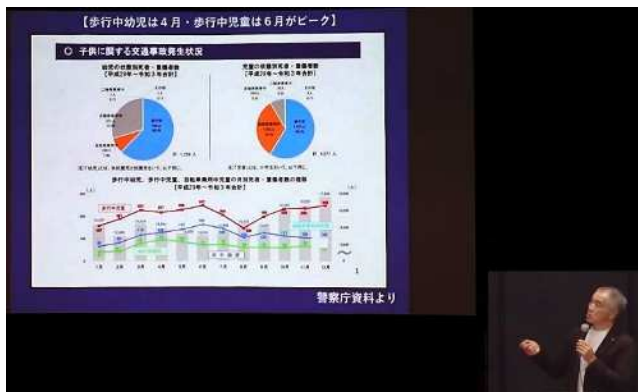
会場では、展示のほかに主催者の企画による基調講演や特別講演、出展社によるセミナーが連日開催されました。この中で、物流の 2024 年問題に関する講演の内容をご紹介します。

(1) 「2024 年問題は交通事故防止で解決！ 20 年間交通事故防止に携わったからわかる事故が多い会社はココが間違っている」

講師：一般社団法人日本事故防止推進機構 理事長 上西 一美 氏

- ・2024 年問題の対策は、単なる時間削減ではなく、いかに効率化を図り利益を出すかである。その中でも、交通事故削減は最優先の課題であり、管理者、運転者ともに、限られた時間の中でより効果の高い交通事故防止対策を行う必要がある。
- ・(講師の上西氏は) 27 歳で神戸市内のタクシー会社に入社し、ドライブレコーダーを全車に導入して、その映像をもとになぜ事故が起きたのか、どうすれば防げたのかを正しく伝えていくことで事故削減率 70%を実現した。35 歳に独立して交通事故削減のコンサルティングとして起業し、以後 20 年間、交通事故防止に携わってきた。
- ・交通事故を無くす大前提は、認知・判断・操作で成り立つ「運転行動」を変えることである。原因追及では事故は無くならない。

- ・交通事故防止の講習は、シミュレーションよりも、ドライブレコーダーの事故映像を使った方が効果的である。なるべく多くの事故映像を見て、疑似体験を重ねることで「運転行動」が変わる。体験が無いと瞬時の判断ができない。
- ・子どもの交通事故は左から飛び出すことが多く、起きる時間帯は、土日は日中、平日は16～17時が多い。また、ここ2～3年は自転車も左から出てくるが多くなった。道路交通法上、自転車は車両と位置付けられているため、自転車は車道を走りなさいと言われるようになったことが要因だと考えられる。
- ・事故が多い会社では交通安全対策が複雑で分かりにくく、とるべき運転行動が曖昧で非現実的である。「一般道での車間距離は、白色のセンターラインの破線4本分」[※]等、具体的な数字を端的に示した方が良い。



日本事故防止推進機構 上西理事長の講演

※脇見運転をした場合、見たことのない状況が視界に入るとつい長く見てしまうので、時速50kmで停止車両に追突するまでの車間距離は、脇見1秒+2秒=3秒として約42mになる。道路の白色のセンターラインの破線は1本5m、線と線の間も5mなので、42mは白色のセンターラインの破線で約4本分となる。

(2) 「2024年問題の対策と物流業界の最新動向 ～生産性向上のためのデジタル化 DX 経営とAIの活用まで解説～」

講師：船井総研ロジ株式会社 物流ビジネスコンサルティング部 物流 HR グループ
グループマネージャー 松尾 一志 氏

- ・運送事業者の新規参入は増加傾向にあり、昨年度の事業者数は過去最高となっている。
- ・業績を伸ばしている運送事業者には次のような特徴がある。
 - ①労務コンプライアンスを徹底している。
 - ②適正な運賃の收受、運送・取引条件の改善ができています。
 - ③従業員1人が1時間働く際の生産性とその指標を管理している。
 - ④DX・デジタル化を進めている。
 - ⑤自社のウェブサイトやブログで人材を集められる。
- ・DXと売上、営業利益の関係を分析すると、売上との相関はないが、営業利益とは相関がみられる。2024年問題の対策として、AIを活用した事故の予防教育強化や映像確認の時間削減、AIを使った自動配車システム、RPA (Robotic Process Automation ; パソコン上で行う繰り返し作業や単純作業、マニュアル化されている作業等の自動化) による定型業務の自動化等、経営でのDX推進が必要である。

物流の2024年問題への対策について、卸売会社や産地では積載効率の向上や配送先の集約、トラック以外の輸送方法検討等の輸送面での議論が多いですが、運輸・物流業界ではドライバーの安全対策や自動点呼のデジタル化による業務改善、AIを使った自動配車システム等、広い視点での対策がとられていることが分かりました。今後もこうした最新情報の把握に努めていきたいと思えます。

「フューネラルビジネスフェア 2024」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024年5月29日（水）～30日（木）に、横浜市西区にあるパシフィコ横浜で「フューネラルビジネスフェア 2024」（主催：総合ユニコム株式会社）が開催されました。9つの部門での企画展示があり、そのうち生花祭壇装飾や輸入商材などが展示された「フューネラルフラワー」の概要を紹介します。

1 「フューネラルビジネスフェア 2024」の概要

当フェアは、葬祭サービス・ライフエンディングサポートの総合展示会&シンポジウムとして開催され、27回目となる今回は146社が出展し、過去最大規模での開催となりました。フラワーデザイン祭壇の展示コーナーは、白をきいて紫や青の寒色系の切花を多く使った祭壇が多数提案されていました。ステージでは出展企業プレゼンテーションなども行われ、多くの来場者が聴講していました。



フラワーデザイン祭壇展示コーナー

2 （一社）フューネラル・フラワー技能検定協会（AFFA）の提案

当協会は、菊を使用した祭壇は必要不可欠としている一方で、現代のニーズを捉えた新しい生花祭壇を展示していました。

生花祭壇の設営は、祭壇の運搬や組み立てなど力仕事が多いため、作業者の負担軽減を目的として資材を軽量化し、祭壇を簡易に設営できるようにすることの重要性を訴えていました。

祭壇の装飾には、生花を使用するため、茎や葉等の大量のゴミが発生し、処分に経費や手間がかかっています。SDGsの取り組みとして、こうした手間を削減するため、従来のように花を面で構成するのではなく、花を前後左右に交差させることで奥行きをつけ、少ない花でもボリューム感のあるデザインとすることや、劣化が早いグリーンをリユースできるアーティフィシャルフラワー*に変更する等の提案がされました。

*シルクやポリエステルなどの素材で作られており、生花をリアルに再現することで、造花よりもクオリティーが高く、冠婚葬祭やデパートのディスプレイなどで使用されています。



新しく提案された生花祭壇展示

3 切り花の輸出入会社の取組

(1) 青島天美花卉有限公司

中国山東省にある同社は、コチョウランを中心に育種から栽培、輸出までを総合的に行っており、アメリカやヨーロッパ、日本などに輸出しています。コチョウランの栽培は20年以上携わっており、高品質なコチョウランを提供することが同社の強みだそうです。

2025年には10万坪（約33ha）のコチョウラン栽培基地が完成する予定で、今後も輸出量を増やしていく計画です。



青島天美花卉有限公司輸出時の出荷箱

(2) 株式会社エーワールド

同社は、韓国産の輪菊や、コロンビア産のカーネーション類・アルストロメリア、中国産の輪菊・小菊など、品質の良い切り花を国内に供給しているそうです。

海外の切り花は、大規模化による大量安定生産や、1品種を大量出荷できるといった利点があります。

物流面では、船便は、韓国（釜山港）から下関港などに1日で到着し、中国（上海港）から大阪・東京港に3～4日で到着します。航空便は、コロンビア（ボゴタ）から成田空港まで3～4日で到着します。現地に冷蔵設備を導入し、各産地から冷蔵トラックや冷蔵コンテナで日本の港や空港までコールドチェーン輸送が確立されており、品質の高いままでの輸送が可能であるとPRされていました。



輸出切り花で制作した展示の様子

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
				愛知産	
2023年実績	978	198 (20%)	865	512	静岡 (34%) 熊本 (22%) 愛知 (20%)
2024年見通し	980	—	900	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
静岡、熊本、愛知などから入荷する。各産地とも作付面積は微減しているが、入荷は前年並の見込み。生育は今のところ順調で、品質も良い。本県産については、例年通り8月の旧盆前にピークとなる見込み。 【見通し】 入荷量：前年並。(0.2%) 価 格：前年をやや上回る。(4.0%)			資材価格の高騰を踏まえた価格設定に努めているので、高品質を維持した生産をお願いしたい。梅雨に入ったので、圃場管理を徹底して品質の維持に努めて欲しい。 産地から提出された出荷計画に基づき量販店へ販売をしているので、計画にずれが生じる場合は、きめ細やかな情報提供をお願いしたい。 量販店が求める消費者ニーズの高い大玉の生産をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
				愛知産	
2023年実績	1,648	513 (31%)	185	207	愛 知 (31%) 静 岡 (20%) 神奈川 (20%)
2024年見通し	1,700	—	175	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
本県のほか、静岡、神奈川などからの入荷となる。沖縄からの入荷はほぼ終了。 今年は昨年のような大雨は無く、目立った病害虫の発生も無く、生育は平年並である。本県の作付面積は横ばいであり、出荷ピークとなる7月は平年並の入荷量が見込まれる。 【見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(3.2%) 価 格：前年をやや下回る。(△5.4%)			愛知県産は品質が高いため、引き続き形や色揃えをしっかりと整えるなど、高品質の保持に努めて欲しい。		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	30,842	222	215	246	265	長野 26%
	2020年	30,668	281	217	226	221	北海道 13%
	2021年	35,602	208	206	207	211	兵庫 10%
	2022年	31,250	229	223	237	230	群馬 8%
	2023年	30,216	248	224	255	242	青森 7%
	5カ年平均	31,716	238	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	30,200	252	—	—	—	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 たまねぎなど根菜類は入荷量が少ない状況が続く見込み。葉菜類の入荷量は平年並の見込み。						
	【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.1%) 価格：前年並。(1.6%)						
だいこん	2019年	1,528	75	75	85	72	青森 55%
	2020年	1,490	115	118	114	122	北海道 32%
	2021年	1,623	94	109	85	93	岐阜 11%
	2022年	1,434	138	114	151	156	長野 1%
	2023年	1,497	95	111	90	88	
	5カ年平均	1,514	103	105	104	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,500	110	110	110	110	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 青森、北海道ともコスト高により面積が減少しているが、入荷量は前年並の見込み。						
	【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.2%) 価格：前年をかなり上回る。(15.8%)						
にんじん	2019年	1,772	119	110	122	124	青森 57%
	2020年	1,957	294	266	275	332	北海道 33%
	2021年	1,876	109	108	107	113	長崎 5%
	2022年	1,518	181	166	201	180	
	2023年	1,552	152	111	90	88	
	5カ年平均	1,735	173	155	161	172	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,500	180	180	180	180	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 青森、北海道は面積減少及び3月の播種期の天候不順により入荷量は減少の見通し。						
	【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.4%) 価格：前年を大幅に上回る。(18.4%)						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月30日現在

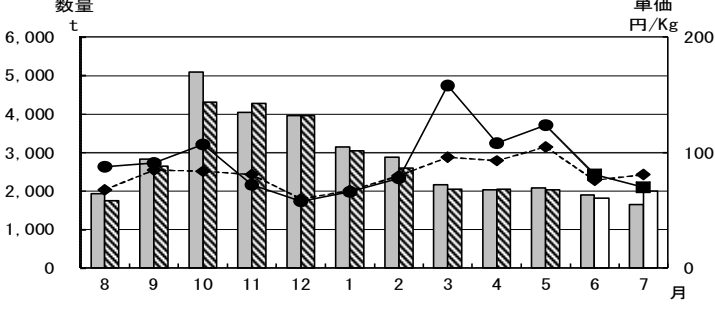
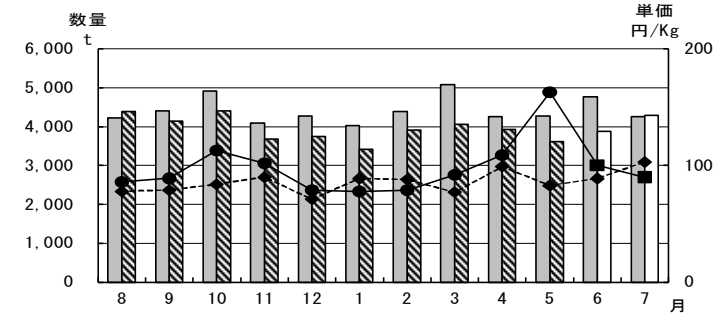
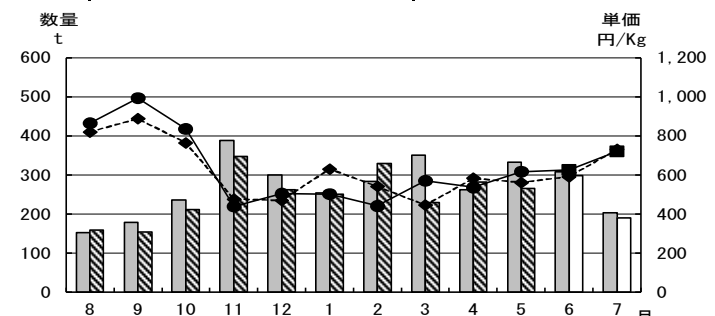
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	1 2 0, 3 0 2	2 4 3	233	252	243	群馬 17%
	2020年	1 1 4, 9 2 5	3 0 5	285	294	333	長野 16%
	2021年	1 2 1, 4 2 6	2 3 0	234	227	230	茨城 11%
	2022年	1 1 0, 1 6 4	2 5 2	247	256	252	北海道 10%
	2023年	1 1 0, 5 9 8	2 7 1	273	272	268	青森 7%
	5ヵ年平均	1 1 5, 4 8 3	2 6 0	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1 1 5, 0 0 0	2 6 0	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 梅雨明けは各地で平年並の見込みだが、局地的な大雨により、入荷量が見通しと異なる可能性がある。キャベツ、レタス、トマト、キュウリの入荷が本格化。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(4.0%) 価格：前年をやや下回る。(△4.1%)</p>					
だいこん	2019年	8, 7 9 0	7 6	77	79	70	北海道 59%
	2020年	7, 4 7 7	1 1 4	114	112	116	青森 32%
	2021年	7, 2 4 0	9 0	106	79	85	群馬 6%
	2022年	6, 2 3 1	1 3 9	110	158	149	神奈川 1%
	2023年	7, 1 7 0	9 2	111	84	83	岩手 1%
	5ヵ年平均	7, 3 8 2	1 0 0	102	100	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7, 2 0 0	8 8	95	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は北海道、青森となる。生育順調。北海道は中旬頃に数量がまとまる。青森は一部で干ばつ傾向がみられる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.4%) 価格：前年をやや下回る。(△4.3%)</p>					
にんじん	2019年	6, 2 6 6	1 1 4	105	112	125	青森 56%
	2020年	5, 7 5 3	2 7 2	250	254	304	北海道 29%
	2021年	6, 0 5 9	1 0 5	106	104	105	千葉 12%
	2022年	5, 2 0 7	1 6 8	155	179	171	中国 2%
	2023年	5, 1 2 9	1 4 6	142	147	150	埼玉 1%
	5ヵ年平均	5, 6 8 3	1 6 0	150	158	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5, 0 0 0	1 8 5	175	190	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は青森、北海道等となる。青森は干ばつ傾向で肥大に影響が出ており、北海道は一部で生育不良がみられる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.5%) 価格：前年を大幅に上回る。(26.7%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	2,080	66	50	65	88	長野 98%
	2020年	1,968	103	78	95	139	
	2021年	2,270	63	59	63	68	
	2022年	2,022	67	69	66	66	
	2023年	1,656	81	80	80	83	
	5カ年平均	1,999	75	66	73	88	前年及び本年の入荷量・価格の動き
2024年見通し	2,000	70	70	70	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長野からほぼ全量を入荷する。概ね順調な生育で、出荷量は平年並の見込み。漬物加工用は、順調な荷動きとなる見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年を大幅に上回る。(20.8%) 価格：前年をかなり下回る。(△13.6%)							
キャベツ	2019年	3,899	76	73	75	81	群馬 47%
	2020年	3,925	101	89	88	129	長野 26%
	2021年	4,965	76	79	71	80	愛知 10%
	2022年	4,584	85	92	89	78	茨城 9%
	2023年	4,259	103	106	113	95	北海道 3%
	5カ年平均	4,326	88	88	87	92	前年及び本年の入荷量・価格の動き
2024年見通し	4,300	90	100	90	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 群馬、長野は上旬から増加し、生育は順調で平年並の出荷の見込み。愛知、茨城は切り上がり早い見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.0%) 価格：前年をかなり下回る。(△12.6%)							
ほうれんそう	2019年	204	759	698	745	847	岐阜 93%
	2020年	245	600	513	652	745	茨城 3%
	2021年	245	600	513	652	745	長野 2%
	2022年	184	692	647	763	729	愛知 2%
	2023年	203	730	687	736	798	0 0%
	5カ年平均	216	670	603	704	771	前年及び本年の入荷量・価格の動き
2024年見通し	190	720	720	720	720		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 岐阜は昨年より面積減で、出荷は減少する見込み。高温期に入り、品質の懸念あり。							
【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△6.4%) 価格：前年並。(△1.4%)							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	7,566	66	51	64	86	長野 90%
	2020年	7,094	98	72	90	129	群馬 8%
	2021年	6,539	59	57	59	61	茨城 1%
	2022年	5,950	62	65	61	59	
	2023年	5,444	74	73	73	77	
	5ヵ年平均	6,519	72	63	70	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5,700	63	60	65	65	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は長野となる。前進出荷傾向で、肥大も良く、病害の発生もないため、前年より増える見込みである。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(4.7%) 価格：前年をかなり下回る。(△14.9%)						
キヤベツ	2019年	16,630	72	71	72	72	群馬 68%
	2020年	16,749	99	87	83	123	岩手 17%
	2021年	17,325	71	82	61	71	長野 7%
	2022年	16,508	78	84	81	70	千葉 3%
	2023年	15,191	97	103	103	87	茨城 3%
	5ヵ年平均	16,481	83	85	79	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	15,300	82	85	85	75	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は群馬、岩手となる。群馬は生育順調、岩手は一部で干ばつ傾向がみられる。入荷量は中旬以降に増加する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.7%) 価格：前年をかなり下回る。(△15.5%)						
ほうれんそう	2019年	976	547	482	622	537	群馬 36%
	2020年	914	714	588	752	818	栃木 31%
	2021年	960	560	440	572	741	茨城 16%
	2022年	791	637	551	695	670	岩手 6%
	2023年	830	640	553	648	758	岐阜 5%
	5ヵ年平均	894	617	520	656	703	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	820	650	600	650	700	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は群馬、栃木等となる。生育は順調で、やや進んでいる。梅雨明け後の品質低下が懸念される。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.2%) 価格：前年並。(1.6%)						

名古屋市中央卸売市場

6月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	524	418	418	422	420	茨城 25%
	2020年	585	631	557	672	662	北海道 17%
	2021年	516	401	396	398	409	大分 17%
	2022年	658	438	407	467	445	愛知 10%
	2023年	634	458	464	500	429	静岡 6%
ねぎ	5カ年平均	583	471	450	495	474	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ねぎ	2024年見通し	650	433	450	420	430	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
ねぎ	【産地状況】 茨城の夏ねぎはピークをむかえ、増加傾向。北海道は中旬の早期出荷となる見込み。愛知の夏ねぎは面積減で入荷は減少傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.5%) 価格：前年をやや下回る。(△5.5%)						
し	2019年	2,537	135	114	132	165	長野 99%
	2020年	2,493	174	123	157	252	
	2021年	2,486	128	116	135	156	
	2022年	2,684	119	120	121	129	
	2023年	2,692	134	131	138	138	
し	5カ年平均	2,578	138	121	136	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
し	2024年見通し	2,600	130	120	130	140	
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
し	【産地状況】 月を通して潤沢な入荷が見込まれ、中旬まで出荷ピークの見込み。気温高により、大玉傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.4%) 価格：前年をわずかに下回る。(△3.0%)						
き	2019年	1,397	309	286	351	288	長野 56%
	2020年	1,373	387	345	375	433	北海道 23%
	2021年	1,719	218	199	241	219	愛知 7%
	2022年	1,407	286	246	314	294	群馬 3%
	2023年	1,466	312	313	311	313	福島 3%
き	5カ年平均	1,472	299	274	315	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
き	2024年見通し	1,450	300	320	300	280	
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
き	【産地状況】 冬春産地の切り上がりは平年並の見込み。夏秋産地の作柄は良好で平年より早い出荷見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.1%) 価格：前年をやや下回る。(△3.8%)						

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	4,181	402	426	431	348	茨城 51%
	2020年	3,652	577	536	631	566	千葉 15%
	2021年	3,995	373	428	368	326	秋田 5%
	2022年	3,700	435	438	469	403	栃木 4%
	2023年	3,839	415	424	442	382	北海道 4%
	5ヵ年平均	3,873	438	449	465	402	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	3,900	370	390	360	360		
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城、千葉となる。各産地とも生育順調。中旬から北海道と青森の入荷が始まる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.6%) 価格：前年をかなり下回る。(△10.8%)</p>						
しめじ	2019年	9,123	127	102	120	163	長野 84%
	2020年	8,306	186	117	164	289	群馬 14%
	2021年	9,125	133	106	131	160	岩手 1%
	2022年	9,603	107	107	102	111	千葉 1%
	2023年	9,625	124	120	126	126	
	5ヵ年平均	9,156	134	110	128	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	9,600	100	90	105	105		
しめじ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は長野、群馬となる。各産地とも生育順調で病害の発生もない。入荷量は中旬以降に増加する。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.3%) 価格：前年を大幅に下回る。(△19.4%)</p>						
きゅうり	2019年	6,595	320	306	439	236	福島 42%
	2020年	6,625	380	339	380	412	岩手 13%
	2021年	8,177	202	191	226	193	秋田 10%
	2022年	6,750	275	259	302	261	群馬 8%
	2023年	7,056	297	306	291	295	千葉 5%
	5ヵ年平均	7,041	291	276	322	276	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	6,900	300	310	300	290		
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は福島、岩手等となる。東北産地は生育順調。関東産地は例年より切り上がり早く、上中旬は端境となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.2%) 価格：前年並。(1.0%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

6月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2019年	922	329	289	365	354	愛知 29%
	2020年	848	405	353	397	476	宮崎 24%
	2021年	1,072	278	284	266	273	山梨 17%
	2022年	913	286	276	276	304	徳島 9%
	2023年	911	327	331	321	333	群馬 9%
	5カ年平均	933	322	305	322	344	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	900	320	320	320	320	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 夏秋産地は生育が遅れており、上旬は少ない見込み。徳島は生産者減と輸送の問題で入荷減の見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.2%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.1%)						
ト マ ト	2019年	1,505	290	258	299	314	岐阜 36%
	2020年	1,283	366	355	354	385	愛知 25%
	2021年	1,578	318	349	298	311	北海道 18%
	2022年	1,494	309	265	310	348	大分 7%
	2023年	1,502	357	321	369	371	熊本 7%
	5カ年平均	1,472	327	309	325	344	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,500	350	350	350	350	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 冬春産地はやや早い切り上がりとなり、夏秋産地は平年並から早い出荷の見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.1%) 価格：前年並。(△2.0%)						
ニ ン ジ ン	2019年	509	592	565	615	603	北海道 52%
	2020年	473	689	575	719	750	茨城 21%
	2021年	557	637	629	681	617	愛知 15%
	2022年	544	614	618	636	595	熊本 4%
	2023年	502	689	639	739	526	長野 3%
	5カ年平均	517	643	606	677	616	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	510	650	650	650	650	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 冬春産地から夏秋産地に切り替わる。北海道が7日から10日程遅れ、上中旬は品薄が予想される。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.6%) 価格：前年をやや下回る。(△5.7%)						

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

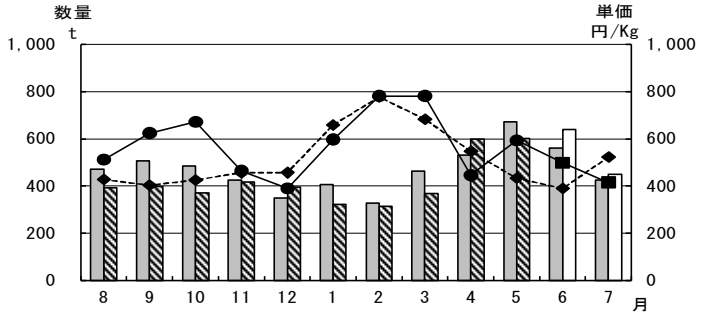
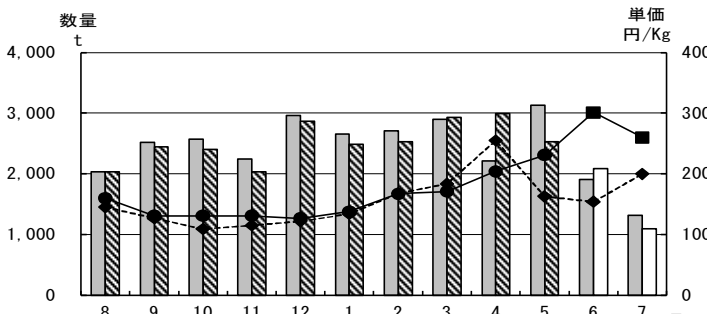
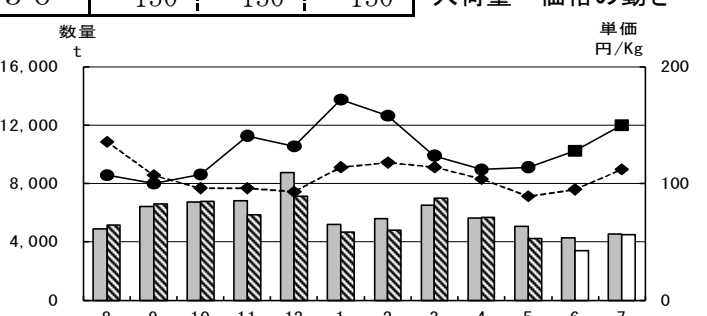
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	3,908	402	335	501	383	群馬 40%
	2020年	3,793	460	408	447	532	茨城 22%
	2021年	4,832	286	305	286	267	栃木 19%
	2022年	4,538	306	291	324	302	高知 4%
	2023年	4,718	339	347	356	318	宮崎 3%
	5ヵ年平均	4,358	353	335	376	352	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4,700	380	370	380	390	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は群馬、茨城等となる。主な産地は西南暖地から関東へ移行する。生育は一部で遅れはあるが全体的には順調。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.4%) 価格：前年をかなり上回る。(12.1%)</p>						
ト	2019年	7,312	308	286	331	310	北海道 19%
	2020年	6,910	363	376	337	374	青森 14%
	2021年	8,005	321	374	303	295	岩手 12%
	2022年	6,971	329	288	340	366	群馬 8%
	2023年	6,647	374	356	382	381	栃木 7%
	5ヵ年平均	7,169	338	336	337	343	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7,000	330	340	340	310	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は北海道、青森等となる。主な産地は西南暖地・関東から北海道・東北へ移行するため、上中旬は端境となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(5.3%) 価格：前年をかなり下回る。(△11.8%)</p>						
ニ	2019年	2,019	570	537	576	593	茨城 24%
	2020年	1,897	651	592	672	684	北海道 15%
	2021年	2,184	604	606	627	585	青森 13%
	2022年	1,891	592	592	571	614	千葉 12%
	2023年	1,871	647	606	671	658	福島 8%
	5ヵ年平均	1,972	612	586	623	625	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,900	630	610	650	630	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城、北海道等となる。熊本の入荷が終了し、北海道は生育が遅れ気味のため、端境となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.5%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.6%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

6月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	459	437	402	432	449	茨城 35%
	2020年	407	579	497	585	600	北海道 27%
	2021年	536	348	358	378	353	高知 11%
	2022年	490	387	364	398	429	宮崎 10%
	2023年	426	524	552	526	473	青森 6%
	5カ年平均	464	447	428	456	453	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	450	416	450	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道、茨城等の夏秋産地に切り替わる。作柄は良好。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(5.6%) 価格：高かった前年を大幅に下回る。(△20.6%)							
ばれいしよ	2019年	1,523	173	165	178	173	静岡 43%
	2020年	1,347	395	404	418	380	長崎 19%
	2021年	1,696	144	137	153	143	北海道 17%
	2022年	1,410	121	103	115	135	茨城 9%
	2023年	1,321	200	182	203	213	青森 5%
	5カ年平均	1,459	202	194	209	204	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,100	260	280	260	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長崎は不作のため、入荷量は少ない。静岡も入荷は少ない見込み。下旬から北海道、青森がスタート。							
【概況見通し】 入荷量：前年を大幅に下回る。(△16.7%) 価格：前年を大幅に上回る。(30.0%)							
たまねぎ	2019年	4,739	81	81	84	79	兵庫 65%
	2020年	4,993	126	112	134	129	北海道 15%
	2021年	5,876	106	105	116	100	富山 6%
	2022年	4,408	162	161	169	160	愛知 4%
	2023年	4,536	112	107	116	113	福井 3%
	5カ年平均	4,910	116	112	123	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4,500	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 兵庫は生育を持ち直し、L中心の見込み。佐賀等の競合産地の生育不良で価格は高値の見込み。北海道は下旬から極早生が始まる。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.8%) 価格：前年を大幅に上回る。(33.9%)							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピー カンマ	2019年	1,880	459	396	488	504	茨城 44%
	2020年	1,970	607	544	615	665	岩手 38%
	2021年	2,185	349	346	362	339	福島 8%
	2022年	1,970	417	356	440	451	青森 4%
	2023年	2,076	497	577	492	430	宮崎 2%
	5カ年平均	2,016	464	444	477	474	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,000	410	400	400	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)		単価 (円/Kg)			
【産地状況】 入荷先の主体は茨城、岩手となる。各産地とも生育順調。岩手は中旬以降に入荷量が増える。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.7%) 価格：前年を大幅に下回る。(△17.5%)							
ば れ い	2019年	5,068	173	166	180	174	茨城 30%
	2020年	4,502	336	344	332	333	静岡 24%
	2021年	4,928	139	148	146	123	千葉 21%
	2022年	4,265	98	96	94	102	北海道 12%
	2023年	4,032	175	173	180	171	長崎 9%
	5カ年平均	4,559	184	185	187	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	3,900	280	290	290	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)		単価 (円/Kg)			
【産地状況】 入荷先の主体は茨城、静岡等となる。静岡は小玉傾向。入荷量が少なく、北海道は下旬から入荷のため上中旬は高値となる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.3%) 価格：前年を大幅に上回る。(60.0%)							
た ま ね ぎ	2019年	9,336	87	84	86	92	兵庫 51%
	2020年	10,025	137	114	138	157	佐賀 21%
	2021年	9,685	117	119	121	111	香川 7%
	2022年	7,543	163	179	155	158	北海道 3%
	2023年	8,154	123	116	124	130	富山 3%
	5カ年平均	8,949	124	120	124	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	8,400	160	140	170	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)		単価 (円/Kg)			
【産地状況】 入荷先の主体は兵庫、佐賀となる。兵庫は生育順調で大玉傾向。佐賀は根傷み等の影響で例年より小玉傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(3.0%) 価格：前年を大幅に上回る。(30.1%)							

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

6月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	7,741	433	442	437	456	フィリピン 19%
	2020年	7,793	448	467	442	398	愛知 11%
	2021年	9,145	463	484	443	465	石川 10%
	2022年	8,755	480	466	466	513	長野 9%
	2023年	8,938	485	485	471	490	山梨 8%
	5カ年平均	8,474	463	—	—	—	
2024年見通し	8,700	490	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 なし、もも、ぶどうは春先の天候不順によりやや遅れ気味であるが、入荷量は平年並からやや多い見込み。みかんは新盆にむけてピークとなる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.7%) 価格：前年並。(1.0%)</p>						
アールスメロン	2019年	160	629	—	—	—	愛知 50%
	2020年	187	549	—	—	—	静岡 40%
	2021年	164	741	—	—	—	高知 7%
	2022年	155	738	—	—	—	茨城 2%
	2023年	131	718	—	—	—	
	5カ年平均	159	669	—	—	—	
2024年見通し	135	740	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 愛知は前年並の見込み。新盆近くは価格が上がる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(3.1%) 価格：前年をやや上回る。(3.1%)</p>						
すいか	2019年	2,664	168	197	163	149	石川 31%
	2020年	3,876	182	216	162	182	長野 21%
	2021年	3,057	227	233	219	232	山形 16%
	2022年	2,958	244	248	240	249	愛知 14%
	2023年	2,949	246	243	242	253	新潟 6%
	5カ年平均	3,101	212	227	204	212	
2024年見通し	2,900	270	280	270	260	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 各産地ともに作付面積微減。各産地生育は平年並。中旬に石川はピークをむかえ、下旬には山形の入荷がはじまり、潤沢な見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.7%) 価格：前年をかなり上回る。(9.8%)</p>						

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	31,291	453	496	453	413	山形 15%
	2020年	30,480	482	521	474	457	山梨 14%
	2021年	34,715	497	526	492	479	千葉 8%
	2022年	30,144	546	530	565	540	青森 7%
	2023年	32,062	546	567	555	525	新潟 7%
	5ヵ年平均	31,738	505	—	—	—	
2024年見通し	32,000	550	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 すいか、もも等を中心に入荷。ももは各産地生育順調の見込み。ハウスみかんは盆需要に向けて入荷量が増加する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.2%) 価格：前年並。(0.7%)</p>						
アールスメロン	2019年	521	742	830	762	620	静岡 45%
	2020年	525	707	766	720	630	茨城 20%
	2021年	475	904	990	988	745	愛知 14%
	2022年	477	891	1,001	972	712	高知 7%
	2023年	490	875	970	932	738	山形 6%
	5ヵ年平均	498	824	911	875	689	
2024年見通し	475	892	975	960	740	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 静岡の一部産地や、茨城の入荷量は前年を下回る見込み。ギフト需要の引き合いは強い。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.1%) 価格：前年並。(1.9%)</p>						
すいか	2019年	10,875	170	202	161	155	山形 25%
	2020年	11,590	186	218	171	173	新潟 16%
	2021年	13,083	237	247	234	234	千葉 13%
	2022年	12,189	256	259	266	246	神奈川 13%
	2023年	12,518	258	255	266	253	鳥取 9%
	5ヵ年平均	12,051	221	236	220	212	
2024年見通し	12,500	257	210	195	195	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 上旬は千葉、鳥取、下旬は山形がピークを迎える。各産地の生育は順調で、潤沢な入荷となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.1%) 価格：前年並。(△0.4%)</p>						

切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知県港花き地方卸売市場 7月5日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2019年	2,005	35	
		2020年	1,749	45	
		2021年	1,597	35	
		2022年	1,253	44	
		2023年	1,238	61	
	5カ年平均		1,568	43	
	2024年見通し		1,300	40	
概要	愛知、岐阜、三重から入荷。上旬から新盆需要に期待。中旬は入荷も落ち着いて、下旬からは旧盆の引き合いもでて、動きが良くなる見込み。				
小 ぎ	実績	2019年	1,858	21	
		2020年	1,672	31	
		2021年	1,467	24	
		2022年	1,017	41	
		2023年	1,309	38	
	5カ年平均		1,465	30	
	2024年見通し		1,300	35	
概要	愛知、長野、埼玉から入荷。上旬は新盆需要期待。梅雨明けの時期次第で下旬からの数量が大きく変動する。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2019年	1,070	41	
		2020年	1,005	45	
		2021年	976	40	
		2022年	971	34	
		2023年	1,000	36	
	5カ年平均		1,004	39	
	2024年見通し		1,000	35	
概要	長野からの入荷が中心。遅い梅雨入りの影響もあって、遅れていた物が一気に追いつく出荷となった。前半は品種により山が続くものもあるが、次第に落ち着く見込み。				
か す み	実績	2019年	129	85	
		2020年	106	95	
		2021年	115	85	
		2022年	140	88	
		2023年	149	85	
	5カ年平均		128	87	
	2024年見通し		150	85	
概要	福島、長野からの入荷。上旬が据え置き株のピークとなる。中旬に数量はまとまりそう。下旬には少し落ち着く見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2019年	334	144	
		2020年	302	152	
		2021年	277	148	
		2022年	265	161	
		2023年	273	146	
	5カ年平均		290	150	
	2024年見通し		270	140	
概要	オリエンタルは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷。新潟は八重ユリを増やしており、入荷は多め。鉄砲は兵庫、長野、愛媛からの入荷。				
洋らん	実績	2019年	333	92	
		2020年	235	100	
		2021年	214	106	
		2022年	195	153	
		2023年	172	148	
	5カ年平均		230	115	
	2024年見通し		180	145	
概要	愛知、静岡、鹿児島産に加え、輸入品が入荷する。オンシジウムは徐々に減少する見込み。デンファレはアンナの入荷はストップし、ソニア中心に入荷は減少する。シンピジウムはニュージーランド産の現地価格上昇で入荷は多く見込めない。カトレアは微増の見込みだが、不足気味の展開が予想される。コチョウランは入荷量、引き合いともに横ばいの見通し。				
ばら	実績	2019年	665	45	
		2020年	585	54	
		2021年	557	51	
		2022年	644	51	
		2023年	683	52	
	5カ年平均		627	51	
	2024年見通し		620	51	
概要	愛知、岐阜、三重、山形、長野などから入荷。昨今の夏場の高温から夏季の収穫を見合わせる品種も出てきており、暑さ対策が課題となってくる。				
枝も	実績	2019年	1,570	56	
		2020年	1,490	58	
		2021年	1,366	64	
		2022年	1,482	71	
		2023年	1,359	75	
	5カ年平均		1,453	65	
	2024年見通し		1,400	70	
概要	遅い梅雨入りで天候が気になり。新盆に入るが大きな影響がなければ、七夕用の笹の出荷が始まり、花蓮、蓮の葉などの納品も始まる。法月も順調な出荷となる見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2019年	23,440	983	
		2020年	25,748	1,020	
		2021年	23,394	992	
		2022年	21,480	1,095	
		2023年	23,404	989	
	5カ年平均		23,493	1,014	
	2024年見通し		23,000	950	
概要	<p>入荷量は前年並か。現状6月までは売れ行きが厳しい。特に8号以上の単価が厳しく、6号以下の単価は例年並の見込みである。色別では、ピンク花の売れ行きが厳しいと予想される。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(71.6%)、2位長崎(21.4%)、3位徳島(2.8%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	2019年	36,823	2,504	
		2020年	29,373	3,215	
		2021年	31,387	3,439	
		2022年	22,489	3,554	
		2023年	26,588	3,534	
	5カ年平均		29,332	3,194	
	2024年見通し		26,500	3,509	
概要	<p>入荷量は前年並か。ミディーはお中元需要も減り、単価の低迷が続いている。円安の影響で苗の輸入が減り、生産量も減少している。気温が高く開花スピードが早いいため、大輪、ミディーとも咲き気味より、固めで出荷をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースで1位愛知(57.3%)、2位静岡(8.5%)、3位千葉(7.5%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2019年	11,990	117	
		2020年	13,446	121	
		2021年	13,715	103	
		2022年	5,142	72	
		2023年	9,650	93	
	5カ年平均		10,789	105	
	2024年見通し		9,600	93	
概要	<p>入荷量は前年並か。酷暑の影響で生産量は例年より減少する見込み。入荷は例年通り3～4号の小鉢中心となる。気温の上昇に伴う花持ち、湿度によるムレなどの問題から安値で推移する見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(58.7%)、2位愛媛(30.7%)、3位愛知(6.4%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシウム	実績	2019年	1,806	554	
		2020年	1,078	701	
		2021年	1,113	412	
		2022年	711	414	
		2023年	711	561	
	5カ年平均		1,231	556	
	2024年見通し		700	549	
概要	<p>入荷量は前年並か。物量は少ないが安値安定の動きが予想される。6号前後の3本寄せ中心の入荷になる。咲き前には注意し、固めの出荷をお願いしたい。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(92.6%)、2位高知(6.4%)となっている。</p>				
スパティファイラム	実績	2019年	5,880	279	
		2020年	6,083	314	
		2021年	7,104	314	
		2022年	2,942	471	
		2023年	4,826	357	
	5カ年平均		5,366	336	
	2024年見通し		4,800	354	
概要	<p>入荷量は前年並か。6月の前倒し出荷や生産量減少が要因で平年より少ない見込み。4号以上が出荷の中心になるため、価格帯は通常なら上がる場所であるが、高価格帯商材の動きが鈍いため、単価は厳しい見通し。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(36.3%)、2位愛知(36.2%)、3位岐阜(21.2%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2019年	22,575	577	
		2020年	20,018	872	
		2021年	19,934	1,127	
		2022年	16,485	1,214	
		2023年	17,273	977	
	5カ年平均		19,257	933	
	2024年見通し		17,000	950	
概要	<p>入荷量は前年並か。海外からの輸入原木の仕入単価が上がりすぎており、平年より入荷量は少ない見込み。特に、8号以上のサイズの原木の入荷は少ない見込み。品目では、コンシンネの生産量は激減しており、今後の生産も少ないと見込まれる。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(60.0%)、2位沖縄(9.4%)、3位三重(7.8%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.613
2024年7月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434